



島根県内で見つけた「エシカル」につながる(エシかってる)行動や事柄をFacebookで紹介しています。

大暑のある日、消費者問題出前講座で浜田市弥栄町を訪れた。主催者の依頼テーマは「エシカル消費」について。出前講座の一大テーマに扱うのは、当センターでも初めてだ。

講座の参加者は60代前後の女性を中心に、恐らく「もったいない」という意識は躰として身につけられている世代。そして、子育てを終え、孫の成長に向き合う人も多かろう。次世代に続く持続可能な社会を目指し、SDGsを指向するのは自然の流れなのかもしれない。



講座は、エシカル消費につながる取組として、①環境、②人や社会、③地域にそれぞれ配慮した消費の事例の紹介から、自分たちができる取組を模索してもらう内容。食材を無駄にしない「食品ロス」についてなどは、むしろ教えを請いたいくらい。地産地消についても身近に見えるところにある。すでに実践中の「エシカル消費」は、もともとそれぞれの胸中にあり、講師の言葉は、その思いを具現化する役割であったかもしれない。

今回の講座で、新たに関心を寄せられたのは「フェアトレード」など、大きく社会とつながる問題。ニュースやドキュメンタリーで知らされる現実と、自分たちの消費生活のつながりについての気づきについて、周辺の席で会話する様子が見えた。

弥栄に、エシカル消費の灯が点った。

SDGsの実践に向け、次回は、森林資源の活用について学ぶという。

講座後、レストラン「陽気な狩人」で昼食。

亭主の今田氏は、店の名前の通り、猟犬を従えて山に入り、猪を捕らえる「狩人」だ。

仕留めた猪は、レストランに併設する加工施設で自ら解体し食材として提供する。この日、いただいた定食で供されている猪肉の確かなトレーサビリティ。



鳥獣対策に悩まされる地域も多く、さぞ猪が増えているのかと思っていたが、狩人曰く、猪の数はむしろ減っているとのこと。気象の変化もあるが、山が荒れているから、と。

人が手をかけることで、里山の環境は整えられ循環しているという。

その中で、人の生活を守るために失われた命は、せめて大切にいただかないといけない。

狩人は「命の授業」で、子ども達にその思いを伝えているという。自然と環境と、動物と人間と、生き物を作る食物と、そ

これらの循環を見つめ続ける「大人」の話の直に聞いて育つ弥栄の子ども達は恵まれている。

弥栄で出会った、太く濃い人と自然とのつながり。この関係を維持しながら、自分の消費に関わる社会の持続を意識して行動する。中山間地の里山の「エシカル消費」とSDGsは、意識の持ち方次第で、ぐんぐん進んでいく予感がする。

「エシカル消費」の推進 「エシカル (ethical)」とは、「倫理的、道徳的」という意味の英語。「エシカル消費」とは、より良い社会に向けた、人や社会、環境などに配慮した消費行動のことです。詳しくは、島根県消費とくらしの安全室の「エシカル消費の推進」のページをご覧ください。

https://www.pref.shimane.lg.jp/life/syoku/shohi/kurasi_info/ethical.html

島根県環境生活部環境生活総務課
消費とくらしの安全室 (島根県消費者センター)
〒690-0887 島根県松江市殿町8-3

島根県消費者センター
Facebookはこちらから→

facebook.com/Shimane.CIC